

エクストリームシリーズ 2024 尾瀬檜枝岐大会

■優勝チーム コメント

『BUNNY WORKS』

浦谷 美帆さん

まずは参加された皆さまお疲れさまでした。

私たち Bunny works は 2012 年のトランスジャパンアルプスレース (TJAR) 完走や国内外のアドベンチャーレース経験が豊富な小畑剣士が率いる、結成 1 年目のチームです。

チームとしては 1 歳ですが、小松広人、浦谷美帆も地図読みは初心者ながらそれぞれ OMM やトレイルレースにはここ数年積極的で、山を走る場数は踏んできました。いわゆる体力自慢の集まりだ。

尾瀬檜枝岐大会はエクストリームシリーズの最終戦。年間チャンピオンが決まるレース！

年間エントリーしている Bunny works は 3 レース終わって暫定 2 位、ここまでで 1 位のちよらんまとはすでに 90 点、3 位の冒険中毒とは 70 点ほど差がついていた。

今回 2 位以下だと年間優勝はあり得ないし、1 位と開いた点差はなかなか大きく、私たちがもし勝って、ちよらんまのちよんぼ次第では...といっても、だいぶ厳しい現実だ。

それでも私たちはやりきろう、楽しもうと全力でぶつかった！

スタートして早々のチームチャレンジは謎解き「私は何でしょう？」

「私」のヒントになる特徴が少しずつ知らされる。回答権は 2 回、2 回間違えると最終チームの回答が終わるまで待機するというハンディキャップ。

正解したら即スタート、年間 3 位の冒険中毒がびっくりな速さで正解し、スタートゲートを 1 番にぐる。色々ヒントが出された後、2 回目の回答で Bunny works も無事スタート。

正解は「舞茸」だったけど、私はずっとトリュフだと思っていた。。黒と白と言えばトリュフだろう。どんなヒントが出されたか知りたい人はエクストレモへ問い合わせて、、

旅の前半 CP1～CP9 は順不同のトレッキングセクション。スタート/CP9 でもある会場に MTB を取りに戻るまで、山と道をひたすら走った。

スタートから一番遠い CP3 は檜枝岐大会では恒例の釣り堀で岩魚釣りチャレンジ！
釣った 3 匹の岩魚をその場で捌いて内臓を取るまでがミッションで、後夜祭でこれが塩焼きにされ食事に出されるという何とも粋なアイデアゲーム。

このメンバーで初めてレース出場したのが 1 年前の同大会。その日も岩魚釣り CP はあって、無知の私たちは釣り針についた食いつきの悪くなったエサを取り替えず何度も投げていたのが原因か、待てど暮らせどヒットしなかった苦い経験をみんな覚えていた。

前回の反省を活かしてエサを何度も取り替えるように、と釣り堀に向かいながらメンバーで話す。餌釣りのセットをもらっていざ！

岩魚たちお腹が減ってたのか、昨年より入れ食い状態で、あっという間に全員釣れて、肩透かしを喰らう。

他にも檜枝岐神社で受け取った絵馬に願い事を書いて所定の場所に吊るす CP2 や、檜枝岐村の風景をスケッチする CP1 が楽しかった。

普段もっと絵心ある絵を描くのに、疲れて全くそれどころじゃなかった。

エクストレモ企画らしい遊び心のある CP は気分転換になるし、その後の記憶としてレースを印象付ける。

リズムよく CP1～8 までをクリアした。思い通りに描けなかったスケッチに未練を残しつつ、最初のトレッキングセクション、あとはスタート会場でもある CP9 に戻るだけだ。

帰り道、MTB にのった 4 人組が颯爽と横を通過していった。オープン参加の Team EAST WIND とはここでもう 20 分くらい差がついている。

でも後ろを振り返ってびっくり！年間チャンピオン暫定 1 位のちよらんまが私たちの後を追っている！

止まらず走り切って、会場に戻る。すぐさま MTB にまたがったら、Team EAST WIND の背中を追う形で、来た道をバイクで戻った。

CP9～CP11 までは長距離 MTB セクションだ。

村の主ロードから右に折れると途端に登り基調の連続で、さらに砂利道、山道へと足場はテクニカルになっていた。この頃私は肩で息をするほどバテバテだった。

もっと前からロードでは仲間のザックの紐を掴ませてもらい牽引状態で走ってたし、登りが始まってから、MTB では絶え間なく背中を押してもらおう始末。それでも絶対辛くても自転車から降りない、長くても歩かない止まらないと決めて足を回した。

レース順位を決定的にしたのが MTB ライド中に通過する CP10 だった。すぐ後ろにはちよもらんま。川の対岸にあるポイントに、どこから攻めるか悩みつつ見過ごした下流の脇道を有無を言わず入っていくちよもらんまを横目で捉えて焦る。直感で U ターンして後を追う形をとる。ここで順位が逆転。

沼化でガタガタのオフロードを進み、出てきたのは巨大ダム of 絶壁。ちよもらんまはすでに 2 人目が MTB を肩に担いでほぼ直角を登り始めていた。後についてここまで来たものの、これも直感か。この先危険と判断して戻った。

これが優勝の分かれ道！脇道に入るまでのトレイルに復帰してから、さらに登って登って上流から再度アタック。ここもダム上を通行する形でなかなかスリリングだったけど、スピードはそこまで落ちず無事に CP10 ゲット！

常に前後を気にしたけど、ここからは一度もちよもらんまを見ることはなかった。

一気に CP11 まで登り詰めて、CP12 から CP15 はトレイルメインのトレッキングだ。沢歩きまくりで膝下が何度も水没した！後半がもっと長かったら足裏が大変なことになっていたと思う。石についた苔に足元を取られながら、仲間に挟んでもらい前進する。リーダーのナビカはキレキレで、ロスなく全クリア。

CP16 MTB をデポした場所に戻ってくる。まだゴールしてないのに勝ちを知って泣けてきた。でもまだ油断はできない。苦勞して登ってきた林道もトップスピードで下る、長かったロードも真剣に漕ぐ。縦一列でぶっ飛ばす！もう出し切って、最後まで背中を押してもらったけど、足を動かし続けて、見えたあの景色。涙のゴール！

表彰式まで美味しい地酒や生ビール、地元の方の振る舞い料理をお腹いっぱいになるまで堪能する。さっきまで競い合ってたあの人もこの人も、ここから先はみんな苦樂を共にした仲間になる。さっき釣った岩魚の塩加減が最高だ！

全チームが明るい間に帰ってきた。陽が落ちるころ、宴会場の賑わいがピークになった。

本番はここからかもしれない。

最終戦にして、優勝出来たことに感動しています。年間チャンピオンは逃したけど、経験値、練習量共に豊富なちよもらんまは強かった、Team EAST WIND はさらに強かった。出直します！

大人になっても全力で遊びが出来る幸せ。それもこれもチームの 2 人、大会運営で携わる色々な方々、同じスタートラインに立つアドベンチャーレーサーのみんなのおかげです。

刺激的な経験をありがとうございました。